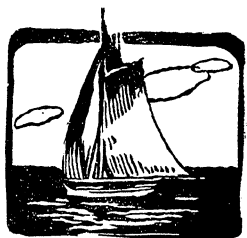


郡市別	飼養戸数				飼養頭数			
	牛	馬	豚	山羊	牛	馬	豚	山羊
都市別	三	三	一	一	一〇九	三〇	二五三	一
水戸	三	三	一	一	一〇九	三〇	二五三	一
東茨城	三	三	一	一	三六六	二〇	六三六	二
西茨城	三	三	一	一	二〇〇	二〇	一八九	二
那珂	一	一	一	一	一五五	三〇	七二三	三
久慈	一	一	一	一	三三	六	一八九	三
多賀	一	一	一	一	一〇一	一	一八九	三
鹿島	一	一	一	一	三三	六	一八九	三
行方	一	一	一	一	二二六	一八	一八九	三
稲敷	一	一	一	一	三三	六	一八九	三
新治	一	一	一	一	二〇六	一八	一八九	三
筑波	一	一	一	一	二〇六	一八	一八九	三
眞壁	一	一	一	一	一〇六	一八	一八九	三
結城	一	一	一	一	二二六	一八	一八九	三
猿島	一	一	一	一	二二六	一八	一八九	三
北相馬	一	一	一	一	一〇六	一八	一八九	三
昭和十一年末	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	四三,〇〇〇	五三,〇〇〇	六三,〇〇〇
昭和十年末	二〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	二三,〇〇〇	三三,〇〇〇	四三,〇〇〇	五三,〇〇〇



海や湖沼河川から 壹千七百餘萬圓の稼ぎ

縣下の十一年度水産統計

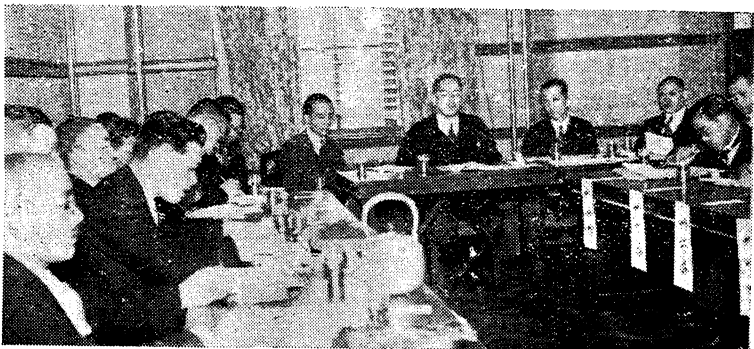
昭和十一年度の水産物總價額は一千七百四十六萬八千七百八十圓で之を種類別に觀れば沿岸漁獲物で六百二十四萬八千五百十圓、遠洋漁業で百九十六萬二千六百三十九圓、水産養殖で九萬三千九百二十八圓、水産製造物で九百十六萬四千六百三十三圓である。尙之を前年と比較すれば總額で五百四十六萬七千七百六十五圓(四割五分六厘)沿岸漁獲物で二百五十七萬二千八百五十七圓(四割九分二厘)水産製造物で二百五十七萬二千八百九十九圓(三割九分)水産養殖で三萬一千六百四十八圓(五割八厘)遠洋漁業で八十萬五千八百六十一圓(六割九分七厘)を孰れも増加した。

尙總額を郡市別に觀るに鹿島郡の八百五十二萬三千四百八十八圓が第一位を占め多賀郡、久慈郡、那珂郡、東茨城郡、新治郡、行方郡で、十萬圓を越えぬところは稲敷、猿島、北相馬眞壁、結城、筑波、水戸、西茨城の順位である。

更に之を種類別に觀れば沿岸漁獲物で鹿島郡の三百九十五萬八千八百九十八圓が第一位を占め之に亞ぐるのは多賀郡、那珂郡、東茨城郡、行方郡、新治郡で十萬圓に満たぬところは稲敷、久慈、猿島、北相馬、眞壁、結城、筑波、水戸、西茨城各郡の順位である。遠洋漁業では久慈郡の九十六萬九千七百九十圓が第一位を占め之に亞ぐものは那珂郡、多賀郡、東茨城郡、鹿島郡の順位である。

水産養殖では東茨城郡の五萬四千四百三十六圓が第一位を占め、之に亞ぐるのは猿島郡、新治郡、那珂郡、筑波郡、眞壁郡、鹿島郡、行方郡、久慈郡、稲敷郡の順位で其の他は孰れも千圓以下である。水産製造物では鹿島郡の四百五十五萬六千七百七十五圓が首位を占め之に亞ぐは多賀郡、久慈郡、那珂郡、東茨城郡、新治郡、行方郡、稲敷郡の順位である。之を種類別郡別に示せば次の通りである。

郡市別	内				總數
	沿岸漁獲物	遠洋漁業	水産養殖	水産製造物	
水戸市	九五三	—	六五八	—	一、六一一
東茨城郡	三一九、〇七三	一七、一一〇	五四、四三六	二七三、一四〇	六六三、七五九
西茨城郡	五六五	—	九四四	—	一、五〇九
那珂郡	三六六、七一一	八四六、〇九四	四、三二二	四一七、四九一	一、六三四、六二〇
久慈郡	三八、七四五	九六九、七九〇	一、四〇七	一、二一八、三九五	二、二二八、三三七
多賀郡	一、一七三、五二〇	一二六、一四五	二五六	二、三八七、七〇五	三、六八七、六二六
鹿島郡	三、九五八、八九八	三、五〇〇	一、七七五	四、五五六、一七五	八、五二〇、三四八
行方郡	一四三、八二七	—	一、六五四	—	二四五、三七八
稲敷郡	七七、八一九	—	一、〇一三	—	八五、六六二
新治郡	一一八、六〇八	—	一一〇、一二八	二〇四、四三〇	三三三、一六六
筑波郡	五、五九七	—	二、六八〇	—	八、二七七
眞壁郡	九、六一六	—	一、九〇六	—	一一、五二二
結城郡	七、五四九	—	九四九	—	八、四九八
猿島郡	一三、九三〇	—	一一、二〇〇	—	二五、一三〇
北相馬郡	一二、七三七	—	六〇〇	—	一三、三三七
合 計	一七、四六八、七八〇	六、二四八、一五〇	一、九六二、六三九	九三、九二八	九、一六四、〇六三



体験を基礎に……

統計座談會

各郡の精鋭を一堂に集めて
三月二十五日茨城會館に開催

統計座談會は三月二十五日午前十一時から統計協議會に引き続き茨城會館食堂に開催された。川崎統計課長座席につき囑託加藤敬愛氏を一同に紹介し各郡から選ばれた統計の權威が各自の体験に基づく意見の開陳を試み、多大の收穫を得て午後一時散會、午餐を共にして解散した。座談會の内容は大要左の如くである。

出席者

【縣統計協會側】川崎統計課長(副會長)、小林綠、成瀬常吉、高島萬藏、齋藤清市(各幹事)加藤敬愛(囑託)
 【各郡町村側】藤地伴介(東茨城郡上中妻村)宇都野久三(西茨城郡岩間町)岡崎輝吉(那珂郡鹽田村)助川國勝(久慈郡賀美村)田村實(多賀郡坂上村)大崎健爾(鹿島郡大同村)正木邦司(行方郡麻生町)油原眞(稻敷郡柴崎村)來栖吉一(新治郡藤澤村)飯岡榮助(筑波郡高道祖村)横瀬定平(眞壁郡大甕村)中島良平(結城郡豊岡村)加藤由之助(猿島郡長田村)坂本惠(北相馬郡東文間村)